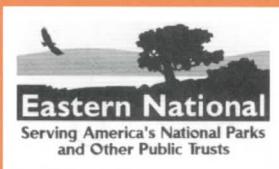


ジョン F. ケネディ  
国家史跡



ローズ・ケネディ夫人が語る思い出話...

John F. Kennedy National Historic Site  
83 Beals Street, Brookline, MA 02446  
617.566.7937 • [www.nps.gov/jofi](http://www.nps.gov/jofi)



©1998 Eastern National

ジョン F. ケネディ国家  
史跡は、米国35代大統  
領の生誕地を保存し皆様に  
ご紹介するものです。

こ

この家で、ケネディ大統領は父ジョセフ P. ケネディとローズ・フィッツジェラルド・ケネディのもとに生まれました。ここでアメリカの名家のひとつであるケネディ家の社交と政治が始まったのです。ケネディ大統領の死後、1966年に大統領生誕の場であるこの家はケネディ家によって買い戻され、ローズ・ケネディ夫人の細かな監督のもと、1917年当時の姿に復元されました。「この家をアメリカの人々に贈り、今後多くの世代がこの家を訪れてアメリカという素晴らしい国の歴史をより良く理解することができるよう」いうのがローズ・ケネディ夫人の願いでした。

ケネディ夫人の当時の思い出を再現するために、国立公園管理部では大統領生誕の家を大統領の母親の声で案内するオーディオテープを作成しました。これには、当時の家族の生活や家具調度、家族の思い出話など、この家にまつわる精神が息づいています。テープによる案内はとても人気があり、各国語にも訳されています。当時を蘇らせるケネディ夫人独特の語り口は、アメリカの35代大統領の優れた人柄と大志を築く土台となった歴史的背景や幼年時代の影響を、訪れる人々に生き生きと描き出しています。

ジョン F. ケネディ国家史跡は米国内務省の国立公園管理部によって管理されています。



## 居間

私どもの家へようこそ。主人ケネディと私は1914年に結婚し、すぐにこの家を買い、新婚生活を始めました。長男はマサチューセッツ州のハルという避暑地で生まれましたが、大統領を含み次の三人の子供たちは皆この家で生まれました。この家は私ども一家にとって、楽しい思い出が数多く残っている

家なのです。

当時の生活は今と比べると、ずっと簡素なものでした。この家の右隣りと、通りの向こう側には家が建っていませんでしたので、広々とした感じだったことをよく覚えています。その頃は、自動車はまだほとんど走っておらず、トロリー電車の停留所までは歩いて15分ほどでした。この家中を歩きながら、当時の私たちの生活の中で大切だったものを取り上げてご説明いたしましょう。ラジオやテレビがまだなかった時代には、居間が家族全員の集まる場所となっていました。ここで家族一同が楽しいひとときを過ごしました。では、ここから始めましょう。

この居間で家族たちと、夕方にはよく一緒に時を過ごしたものです。当時ある銀行の頭取を務めていた主人のケネディにとって、この夕方のひとときは、その日の新聞を読んだり、大好きなミステリー小説を楽しんだりできる貴重な時間もありました。主人は、あの折たたみテーブルの脇にある赤い椅子に座って読書をしました。あの頃は夕方になると、皆で「ボストン・トランスクリプト」を読んだものです。新聞は一部1セントでした。私は主人と向かい合って、テーブルの横にある「そで椅子」に座りました。この椅子を見ると、私はいつも、男の子たちの長靴下の穴が目に浮かびます。ニッカーボッカーナーと膝までのストッキングを履いている男の子たちはいつも靴下に穴があいていて、私は毎週1回か2回は繕ってやらねばなりませんでした。

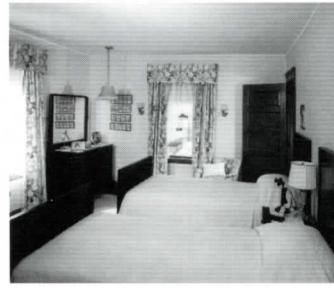
寝る時間になってお祈りをすませた後、子供たちはこの居間に来て、ベッドに追いやられるまでのわずかの間遊んで過ごすのでした。子供たちを寝かしつけた後で、主人と私はよく長い散歩に出たものです。1時間ほど、二人だけで散歩を楽しむのが常でした。

子供たちには長い時間をかけて本を読み聞かせました。学校から年に2回出される良書一覧表や婦人産業組合の推薦図書のリストからよく選び抜いた本です。夕方には子供たちの勉強を見てやったり、風邪の介護をしたり、一日中何をして過ごしたのかを聞いてやったりするために、私は夜の外出などの約束ごとはできる限り避けるようにしていました。

このピアノは、私たちの結婚祝いの贈物としていただいたもので、クリスマスになるとあの南側の窓のところにクリスマス・ツリーを立てて、私のピアノに合わせて皆でクリスマス・キャロルを歌いました。男の子たちにもピアノのレッスンを受けさせましたが、これはどうやら失敗だったようです。その頃、新しいものとしてラジオが普及し始めたので、せっかくピアノが弾けるようになつてもラジオで同じ歌が聞けるから誰も僕たちのピアノなんか聴いてくれないよ、というわけでした。

この部屋に飾ってある絵は、私が昔ヨーロッパの画廊で勉強した名画の複製です。このような複製画を持つことは私にとって大変うれしいことで、またこれらの絵を見て育つ子供たちにとっても何らかのインスピレーションになるものと考えました。

では、二階のマスター・ベッドルーム、つまり私たち夫婦の寝室へ参りましょう。途中の廊下に、旧式の電話機があります。



## マスター・ベッドルーム

大統領は窓の近くのツイン・ベッドの上で生まれました。1917年5月29日の午後3時でした。当時は、出産の時刻が日中だった場合には、光線の具合がお医者さんにとって都合が良いように、産婦は窓際のベッドを使うのが普通でした。

生まれたばかりの赤ちゃんを初めて抱いて、子供の将来に影響を

与えるであろう自分の言動を考えるとき、母親はその責任の重さをひしひしと感じるものです。この子と一緒にすること、この子にしてやることが、この子一人だけでなく、この子が出会うすべての人々に影響を及ぼし、しかもその影響は一時的なものではなく、一つの時代あるいは永遠にわたるものかも知れないのです。

幾年も経ってから、この子ジャックが大統領に選ばれたとき、あの凍てつくような寒い日に、アメリカ合衆国の幾百万人もの母親の中で自分こそが大統領に就任しようとしている息子の母親であると思ったとき、私は何と幸福な人間なのだろうかと感じました。

ベッドのそばにある絵は聖母とその子の姿を描いたイタリアの絵で、私が見つけて気に入った複製画です。私の両親がアイルランド・リネンのベッド・カバーを贈ってくれました。これには、シャムロックと呼ばれる三つ葉やアザミその他のアイルランドのシンボルが刺繡してあり、一家の家宝なのです。

主人ケネディのドレッサーの上にある写真は、主人の両親です。向こうの壁の写真は子供たちの生後6ヶ月のときに撮るしきたりの写真で、ジョー・ジュニア、ジャック、ローズマリー、そしてキャサリンのものです。赤ちゃんは皆同じに見えると言う人もいますが、私にはこんな小さな赤ちゃんでもそれぞれの違いが良くわかります。

子供部屋は廊下の向こう側です。



## 子供部屋

ここでジョー・ジュニアとジャックがこの揺りかごを使って以来、ケネディ家の子供たちや孫たちがこの同じ揺りかごを使ってきました。子供たちは本が大好きでした。ジャックが一番好きだった本は、おそらく「アーサー王と騎士たち」だったはずです。学校や児童書を扱っている書店から推薦された本の中から、注意深く選んで与えたものです。けれども、子供たちは私の教育的な本選びにはあまり関心を示さなかったようです。というのは、ジャックが宝物のように大切にしていたお気に入りの本は「ビリー・ウィスカース（ひげのビリー）」という山羊のお話の本で、これは私の母がデパートで買つめたものでした。挿絵は粗雑で色あいもどぎついように思いましたが、子供たちはこのお話を大好きで、挿絵を見て喜んだりしたものです。

隅のほうに置いてある洗礼着は、主人の母がフランシスコ派教団の尼僧に仕立てさせて私に贈ってくれたもので、義母が住んでいたイースト・ボストンで作られました。私の子供たちと大統領の息子のジョン・ジュニアがこれを着ました。贈物としていただいたアイルランドのポンネットには、シャムロックがたくさん付いています。

大統領は、近くの聖エイダン教会で洗礼を受けました。当時は、母

親は産後三週間はベッドで休養するしきたりでしたので、洗礼のお祝いの集まりはうちわの親戚だけのささやかなものでした。私は子供たちにはできるだけ早く洗礼を受けさせたかったので、洗礼式に出席したこと�이ありません。

もちろん当時は、今よりももっとたくさんのおもちゃがこの部屋に置いてありました。大統領は、蒸気機関車、熊の人形、その他男の子の好むおもちゃで遊びましたが、特に冒險物語の本が大好きでした。

1917年頃にはラジオもテレビもなかったので、子供たちが病気になったときに退屈しのぎにあてがってやるものはありませんでした。ですから、特にジャックが1920年によう紅熱にかかった時などには、本を読んでやったり、話の相手になつたりして、この子供部屋に寝かせて面倒を見たものです。

ゲストルームと婦人室は廊下の先にあります。



### ゲストルームと婦人室

この家の大きさと子供の数からして、私たちはこの部屋をゲストルームとして使った後、子供たちの寝室にもしました。当時はこの部屋から外の通りが見渡せ、とても居心地の良い部屋でした。アイルランド・リネンのベッドカバーや銀製の洗面セットなど、私たち夫婦の寝室とよく似た調度がほどこ

してあります。

この小さい方の部屋を私の書斎として使いました。机の上には、私たちの結婚式への招待状と私の家族の古い写真があります。ここで私は手紙を書いたり、子供たちの健康状態についてのカード・ファイルを作ったりしました。このファイルは大変役に立ったシステムでした。近所の文房具店からカード・ファイルを買って、子供たちの一人一人についての大切な健康データをすべて記録しておきました。症状、体重、食事について、また予防接種や健康診断の記録その他をチェックできるのでとても役に立ちました。お母さんたちにもぜひお薦めします。では、一階に降りてダイニングルームに参りましょう。階段を降りた右側です。



### ダイニングルーム

私たち家族の生活中で、この部屋が一番大切な場所だったと思います。まだ幼かった頃、子供たちは窓のところのテーブルで食事をしました。銀製のナプキン・リングや深めのお皿などは大統領とその兄が使つたもので、それぞれの名前の頭文字が彫り込まれています。

当時のままのダイニングテーブル、ビュッフェ、給仕用テーブル、それに食器棚がここに昔通り置いてあるのは、ほんとうに幸運なことだと思います。というは、1921年に私たちがこの家から引っ越したとき、これらの家具一式を友人のロバート・フィッシャー

一家に進呈したのですが、これを大切に保管してくださった上に、この家のためにそっくり全部を喜んで返してくださったのです。銀製の紅茶セットとコーヒー・サーバーは結婚のお祝いとしていただいたものの、食器類は義姉のマーガレット・ケネディ・パークからの贈物で、彼女が学生の頃、ノートルダム修道院で金の縁取りを塗ったものです。食事の前の祈りが誰に指名されるかわからないので、子供たちはいつも緊張していました。祝日には、その日の意味、たとえば、4月19日にはレキシントンとコンコードの戦いについての話をしながら食事をしたこと思い出します。日曜日には、教会のミサでの福音について語り合いました。ある日曜日に気を散らしてあまりよく話を聞いていたかった子供は、次の日曜日にはしっかりと注意を払いました。なぜなら、必ず質問されることがわかっていましたから。

この部屋では正式な晩餐会のようなものはあまりしませんでした。小人数の友人と、格式ばらない食事をするほうが私たちの好みにあっていましたからです。当時はカクテルパーティは一般的ではありませんでした。結婚式とか洗礼式のときなどに、少しばかりのワインとシャンパンが出るくらいのものだったのです。

キッチンは廊下の右沿いにあります。



### キッチン

料理用ストーブの上に煮豆用の鍋があります。土曜日の晩にはいつもボストン風の煮豆を食べました。日曜日の朝食用にまた温め直し、茶色のパンと食べるとそれは大変おいしいものでした。ボストン風煮豆や、それとよく一緒に出された

ピカッリと呼ばれる漬け物についても、人それぞれの味付けがありました。

赤ちゃんの哺乳瓶を煮沸消毒したり、粉ミルクを用意したり、食事を調理したり、このキッチンはとても忙しい場所でした。目の回るような忙しさのときには、赤ちゃんを乳母車に乗せ、両手に一人づつ子供の手を引き、犬まで連れて、角の食料品店まで出かけました。帰りがけには聖エイダン教会によく立ち寄りました。教会は日曜日だけのものではなく、一週間毎日のものであることを子供たちに教えたからです。

裏のドアから出るとき、暖かい春の日差しの中で遊んでいる子供たちの笑い声を、冬の日に雪だるまを作っている子供たちの姿を思い描いてください。私は、子供たちが皆元気に遊んでいることを、この窓から外をのぞいては確かめたものです。

私たちの家をご案内しましたが、楽しんでいただけたなら幸いです。この家に住んでいた頃、私たちはとても幸せでした。将来に向かって、はつらつとした明るい日々を送っていたのです。